

12月の農作業管理

柑橘

「一果入魂」こだわりを持った生産管理に努めよう

1、今年の傾向

本年産みかんは秋の高温、降雨不足の影響で果実の体質は弱いと予想されます。又、今後の降雨により浮皮果の発生も心配されますので、着色の良い物から早めに収穫し、丁寧な取扱い・こまやかな管理を行いましょよう。

○糖酸分析結果

周防大島統括本部調査

年度	普通		大津4号		青島	
	糖	酸	糖	酸	糖	酸
H29	9.0	1.03	9.6	1.14	8.9	1.04
H30	10.1	1.09	10.7	1.10	10.1	1.17
元年	9.5	1.15	10.4	1.27	9.7	1.05
2年	9.9	1.20	10.6	1.33	9.8	1.21
3年	9.9	0.98	10.7	1.11	10.0	1.02

※一斉分析の数値(11月4日分析)

●収穫での注意点

- 1、果実内容、着色に差があるため、区分採収・貯蔵を徹底しましょう。
- 2、浮皮の発生に注意し、採収遅れにならないよう気をつけましょう。
- 3、ハサミ傷、軸長等が腐敗の原因になるため丁寧に収穫を行いましょよう。

●貯蔵での注意点

- 1、貯蔵中の味の低下を抑えるため、予措を徹底しましょう。
- 2、貯蔵庫内での無理な色付け処理（ムシ込み等）はしないようにしましょよう。
- 3、腐敗果の点検をこまめに行いましょよう。
- 4、温度・湿度を一定に維持するため定期的な換気を行いましょよう。

●果実の取扱上の注意点

果実に落下の衝撃（30cm程度）を一度与えるだけで呼吸量が増え、貯蔵力の低下、味ボケ・貯蔵臭の発生の原因になります。

収穫・貯蔵・家庭選別の際、果実に衝撃を与えないよう注意をしましょよう。

●予措と貯蔵の目安

品種	貯蔵区分	予措	貯蔵	
		減量歩合(%)	温度(℃)	湿度(%)
普通温州	出荷予措	2~3		
	貯蔵予措	3~5	5~8	85
伊予柑	貯蔵	5~6	6~8	85
ポンカン	貯蔵	5~7	5~8	80

2、「せとみ」「デコポン」等の袋かけ

年明け以降に収穫する品種で、低温に遭遇する可能性のある品種は被害の回避、また、鳥の被害を防ぐために袋かけを行いましょよう。

まだ行っていない園では、12月5日までに実施しましょよう。

3、越冬病害虫防除

時期	散布目的	薬剤名	
12月下旬 ～ 1月上旬	ミカンハダニ カイガラムシ類	機械油乳剤(95%) 又は アタックオイル	40倍 60倍
	樹勢回復	尿素	500倍
	花芽促進	リンクエース	2,000倍

- ミカンハダニ・カイガラムシ類（ヤノネ、サンホーゼ等）防除は、冬季のマシン油散布が基本です。
樹の内部に（幹・枝・葉裏）にも十分かかるよう散布して下さい。
- 中晩柑及び極早生等の樹勢の弱い品種・系統にはアタックオイル60倍を散布して下さい。
（ハダニ防除主体）

樹勢回復、花芽促進を目的に、収穫後、2～3回（1週間間隔）尿素とリンクエースの葉面散布を行いましょ。機械油等にも混用は可能です。

落葉果樹

	時期	作業内容
梅	12月	・越冬病害虫、カイガラムシ防除 機械油乳剤95 14倍 ・苦土石灰の施用 2～3袋（10a 当たり）
柿（フルーツ）	12月上旬	・剪定…12月から樹液の流動が始まる2月上旬までに行いましょう 1㎡当り結果母枝数は3本程度にしましょう
カキ	12月中旬	・土壌改良剤(ヨリリ)の施用 1袋（10a 当たり）

野菜

作物	作業内容
ハクサイ	頭を押さえてみて、硬く締まっているようなら収穫できます。畑で貯蔵する場合は外葉を縛ることで結球が進み、寒さにも強くなります。早めに縛るとアブラムシの巣になりやすいので、初霜が降りてから行いましょう。
ダイコン	上に向かって勢いよく伸びた葉が開き気味になり、外葉が垂れるようになったら収穫できます。収穫が遅れるとス入り（空洞化）しますので収穫遅れに注意しましょう
ジャガイモ	収穫は霜で茎葉が枯れた後に行います。収穫後は日陰でよく乾かし、段ボール箱などに入れて冷暗所で保存すれば、半年くらいはもちます。